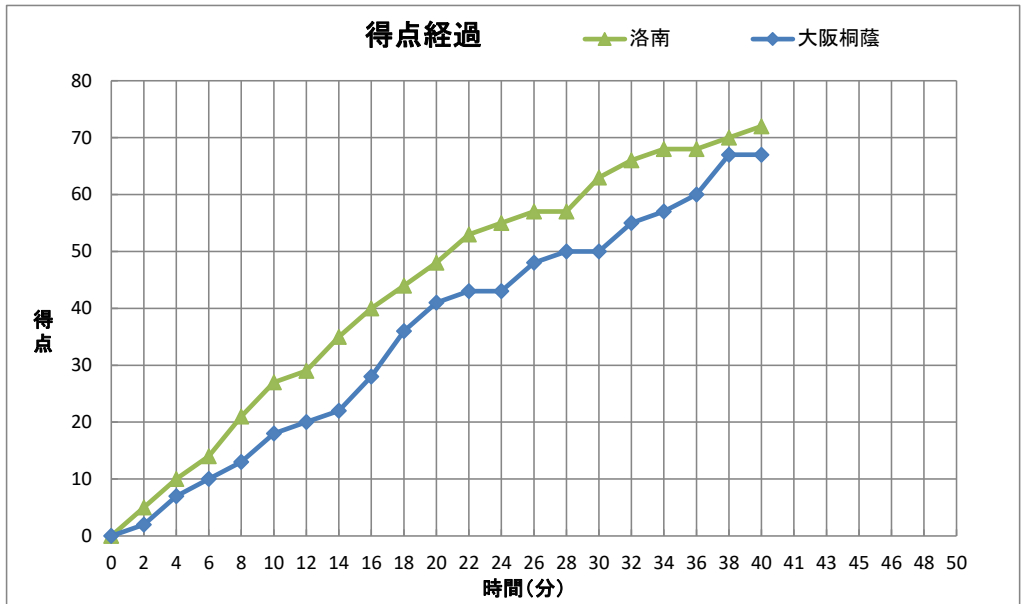




令和3年度
第68回近畿高等学校バスケットボール大会

個人トータル表

男子		6月26日	14:00 開始													
準々決勝		E														
◎ 洛南	72	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>27</td><td>1st</td><td>18</td></tr> <tr><td>21</td><td>2nd</td><td>23</td></tr> <tr><td>15</td><td>3rd</td><td>9</td></tr> <tr><td>9</td><td>4th</td><td>17</td></tr> </table>	27	1st	18	21	2nd	23	15	3rd	9	9	4th	17	67	大阪桐蔭
27	1st	18														
21	2nd	23														
15	3rd	9														
9	4th	17														
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則			
* 4	岩屋 頼	8	0	4	0	0	* 13	上野 嘉一	9	0	4	1	2			
* 5	大西 一輝	15	1	6	0	1	53	井元 翔	-	-	-	-	-			
* 6	山岸 優介	2	0	1	0	0	* 6	金友 蓮	7	1	2	0	3			
7	杉信 イフエアニ	6	0	3	0	2	77	岩波 湊人	11	3	1	0	0			
* 8	藪田 恵大	16	0	7	2	2	* 99	尾形 隼	19	0	9	1	0			
9	高田 和幸	5	1	1	0	2	22	高橋 唯斗	0	0	0	0	0			
10	廣瀬 励哉	-	-	-	-	-	14	バイクル ザッカリー	-	-	-	-	-			
11	中西 慶	-	-	-	-	-	73	谷 アラン	-	-	-	-	-			
* 12	星川 開聖	13	1	5	0	2	17	岡本 徳希	-	-	-	-	-			
13	三浦 健一	-	-	-	-	-	9	丸橋 直矢	-	-	-	-	-			
14	西村 渉	7	0	3	1	2	* 3	サーノントーハ 真彪	9	1	1	4	4			
15	波多野 心優	-	-	-	-	-	* 7	秋田 楓季	12	4	0	0	0			
16	辻 永遠	-	-	-	-	-	12	吉田 陽	-	-	-	-	-			
17	鬼防 壬陽人	-	-	-	-	-	11	高橋 彩斗	-	-	-	-	-			
18	和田 天祐	-	-	-	-	-	8	愛島 晟嘉	-	-	-	-	-			
コーチ	吉田 裕司					0	コーチ	青木 徹					0			
Aコーチ	河合 祥樹						Aコーチ	和久津 和洋								
合計		72	3	30	3	11	合計		67	9	17	6	9			
<p>主審: 那須 弘幸 副審: 大倉 哲也 副審: 西川 恵輔</p>																



CTO	1・2P		3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	35:06	:	:	:	:	:	:
TeamB	8:11	16:20	37:49	39:21	39:53	:	:	:	:

〔戦評〕
両チーム共にハーフコートマンツーマンでゲーム開始。
第1Q、洛南は#6山岸のポストプレイや#4岩屋、#8藪田の緩急のあるドライブで得点を重ねていく。対する大阪桐蔭は#9尾形の高さを活かしたゴール下や#7岩波の3Pで対抗する。27対18洛南リードで終える。
第2Q、大阪桐蔭は1-1-2-1ゾーンディフェンスを仕掛け、洛南のミスから#7岩波#13上野が速攻で得点を重ねる。洛南は大阪桐蔭のマンツーマンとゾーンディフェンスを使い分けるチェンジングディフェンスに対し、#9高田や#4岩屋で得点をするが、終了間際に大阪桐蔭#7秋田が3Pを決め48対41と点差を縮めて前半を終えた。
第3Q、洛南はハーフコートマンツーマン、大阪桐蔭は3-2ゾーンでスタート。洛南は、大阪桐蔭のシュートミスからリバウンドを確実にものにし、5人全員が速攻に絡み、得点を重ねていく。特に#5大西のドライブインからの2Pやキックアウトによる3Pは洛南にオフェンスのリズムを徐々に生み出していく。大阪桐蔭は#7秋田の3Pや#9尾形のゴール下でのディフェンスや速攻への参加といったハードワークが光ったが、63-50洛南リードで最終Qへ入る。
第4Q、大阪桐蔭は1-1-2-1ゾーンディフェンスを仕掛ける。対する洛南はマンツーマンから#7杉信が大阪桐蔭のミスを誘い、速攻で得点を重ねる。残り3分を過ぎた頃、大阪桐蔭#6金友のドライブインからの2P、#7秋田の3Pで70対67の3点差まで追いつける。その後お互い得点ができないまま時間は経過する。大阪桐蔭はタイムアウトを取り、オフェンスを確認するが、洛南は落ち着いて対応し、72対67で洛南が勝利した。
勝敗の決め手となったのは、洛南の勝負所での球際の強さと冷静さを保ったプレイであった。大阪桐蔭もゲームを通じてハードワークをこなし見事であった。